

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01739

研究課題名（和文）19世紀後半、中国海関の無条約国への対応—原資料による国際貿易と統計処理の検討

研究課題名（英文）Research on original trade record of Chinese Maritime Custom with non-treaty countries in the latter half of 19th century

研究代表者

濱下 武志（HAMASHITA, TAKESHI）

龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：90126368

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：19世紀後半に中国で登場した新たな貿易管理機構である海関は、それ以前に存続した清朝を中心とする朝貢貿易を引き継ぎつつ改変する課題に直面した。旧朝貢国の中にはシャムのように無条約国となった国があった。この無条約国との貿易に関して、初期の中国海関がいわゆる朝貢関係と条約関係の間に立ち、貿易統計のみならず海関の海洋インフラ整備事業も、無条約国への対応は条約港の下に包摂して対処したかを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀後半に中国で登場した新たな貿易管理機構である海関が直面した課題と対応について、従来のいわゆる「朝貢から条約へ」という東アジア近代史の移行の議論に対し、経済史・地域関係史の視点から再検討を加え、初期の中国海関がいわゆる朝貢関係と条約関係を条約港としての交易活動に包摂し、華商ネットワークとアジア域内貿易の拡大をもたらしたとするアジアの側からの近代経済史像を提起した。

研究成果の概要（英文）：Under the new trade mechanism that emerged from treaty relation between Western states and China in the second half of the 19th century, the Chinese Maritime Custom (CMC) faced the challenge of taking over and modifying the long lasting tributary trade system between the Qing dynasty and the East and Southeast Asian region. Some of the former tributary state, such as Siam, became non-treaty states, and this research reveals how the CMC oscillated between so-called tributary and treaty relations in terms of trade with these non-treaty states. It can be argued that the CMC addressed the non-treaty states not only in terms of trade statistics but also in terms of maritime infrastructure development projects by incorporating them within the treaty ports system. However, this was a distinct approach from the diplomatic treatment of non-treaty states discussed by the Qing government.

研究分野：経済史

キーワード：無条約国 貿易統計 中国海関 香港 シャム

1. 研究開始当初の背景

19世紀後半に中国で登場した新たな貿易管理機構である海関は、それ以前に長期にわたり存続した清朝と東アジア・東南アジア地域との朝貢貿易の運用をどのように引き継ぎかつ改変するかという課題に直面した。旧朝貢国の中にはシャムのように無条約国となった国があり、この条件の下で貿易関係を如何に扱うべきかをめぐり新たな対応を迫られることになった。本研究では、従来のいわゆる「朝貢関係から条約関係へ」という東アジア近代史の移行期の特徴づけを経済史・地域関係史の視点から再検討するという関心を背景に持ちつつ、具体的にはこの無条約国との貿易に関して、初期の中国海関がいわゆる朝貢関係と条約関係の間を揺れ動いた実態を統計処理の側面から検討し、アジア近代経済史像再構成の契機とする。

2. 研究の目的

いわゆる条約関係は、主に欧米諸国と非欧米諸国の外交関係を規定したものではあったが、多様なレベルの歴史的な貿易関係を包摂していたとは限らなかった。むしろ貿易関係は、この条約関係にも促されて開港場や航路・航運などの海洋インフラが整備され、むしろより開港場間により一層多様な貿易関係を形作ったということが出来る。19世紀中葉のイギリス綿布の輸入や中国や日本からの茶輸出やアジア域内のコメ貿易の拡大に伴って、いわば条約関係に包摂されない歴史的な経済交易関係も新たに活発化したとすることができる。

これらの貿易関係をめぐる新旧の諸要因について、とりわけ、アジア域内の伝統的な地域間交易を代表するシャムのコメ貿易をめぐり、この交易関係を促進した香港とシンガポールの役割、清朝末期に形成された中国海関の交易管理と港湾インフラ整備のための財源確保などの動きを検討することにより、無条約国への対応を貿易関係の拡大という点から検討することを目的とする。

3. 研究の方法

本調査研究の方法上ならびに資料上の主要な点は、以下の3点である。(1) シャム側・清朝側・イギリス側の貿易問題の関連する資料を検討すること、とりわけ無条約国といわれる対象国に対して中国海関はどのように対応し統計的な処理がなされたかを検討する。(2) 貿易関係のネットワークを中継する役割を果たしたシンガポール・香港は、アジア域内交易上でいかなる新たな役割を果たしたかについて検討する。いわゆる条約関係によって截然と時期区分がなされるのではなく、貿易や金融関係はネットワーク形成という視点からの接近がより実態を把握する上で有効な方法であると考えられる。(3) 中国海関資料のなかの貿易統計・貿易報告資料を統計的に検討することに加え、19世紀後半から新設された海関総稅務司の下で作成された原資料として、「通令」Circular と呼ばれる海関総稅務司から書く海関稅務司への指示・依頼・提案などを含む資料並びに近年一部が閲覧可能になった「書信」Despatch と呼ばれる、海関総稅務司と各海関稅務司との間の往復書簡を検討した。これは、制度としての海関が、どのように問題に直面し、それらを解決したか、または出来なかったかという対応の過程を詳細に知ることが出来る原資料である。

4. 研究成果

新たな資料検討から明らかになったことは、海関独自ともいえる稅收増加策の遂行である。1870年代初頭には、海関の統計項目の中に無条約国を既に含めており、稅收増加のための工夫がなされている。1873年のウィーン万国博覽会への出品は、海関が編集した中国の貿易統計であった。そこで海関は世界の各国民・消費者・生産者・運搬業者・保險業者に対して中国貿易への参加を呼び掛けている。

具体的な事情についてみると、海関側は、条約港へ入港する船籍への課稅では、徴收した關稅の中から清朝への引き渡し分の残余を灯台建設や港湾整備に使用することを課題としており、シャム船問題と言われる天津港や寧波港で生じたシャム船の多様なまた歴史的な貿易活動の継続に対しても、朝貢貿易時のように常關での課稅・免稅をおこなおうとする清朝側の貿易管理に対して、海関はそれとは異なる対応を行う。海関總稅務司のハートは、港湾建設・航路の開設など海洋インフラの建設にも携わり、そのための財源確保が必要であった。

他方、シャムは歴史的に長期にわたり朝貢国としてコメを中心とする交易関係を継続しており、清朝は旧来の朝貢国の扱いで常關において交易を管理することを試みるが、海関としては条約港に入港する船からは船稅の徴收を試みる。ここでは、朝貢貿易の継続と海関の対応とがシャムのコメ貿易をめぐって交錯していることになる。また、シャム側も、乗組員は潮州から

移民した中国人であることを主張したり、或いはシャムの国旗を掲げて入港するなど、むしろ、朝貢と条約の境界を利用した動きを取る。

シンガポールと香港の交易ネットワーク上の役割については、以下の特徴を確認することが出来る。(1) 自由貿易港の下に内外の船舶の往来を容易にし、シンガポールと香港間の航行を活発化させてことから、シャムのコメはこれらの条件を活用してシンガポール・香港経由で輸出することが活発化する。(2) 両地に太古洋行や香港上海銀行など外国商社や銀行が進出することにより、欧米の貿易・投資活動を引き込むことになった。(3) 香港に南北行と呼ばれる香港から国内各地へ移出を行う大規模な卸売市場が成立し、また香港をネットワークの拠点とし、福建・広東から東南アジア各地に交易網を作り上げた元発行や乾泰隆などのシャムと潮州を結ぶコメ貿易や精米業を営む華商の交易ネットワークが登場した。

以上のように、海関としては、貿易統計のみならず海関の海洋インフラ整備事業も、無条約国への対応としては条約港の下に包摂して対処したと言えるが、清朝が議論する外交上の無条約国とは異なる対応であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小泉順子	4. 巻 第239集
2. 論文標題 「国王モンクットとシャム・イギリス修好通商条約(1855)」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 75-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 濱下武志	4. 巻 第130編 第1号
2. 論文標題 海関資料に生かされる－旧中国海関資料群の活用と次代の東アジア研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 濱下 武志	4. 巻 2021年11月第6期
2. 論文標題 全球歴史視野下晩清海関資料の新挑戦与新途径	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『清史研究』（中国人民大学清史研究所）	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 濱下 武志	4. 巻 2020.6 (189)
2. 論文標題 中国海関史研究的三個循環	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史林	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 濱下 武志	4. 巻 130-1
2. 論文標題 海関資料に生かされる－旧中国海関資料群の活用と次代の東アジア研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOIZUMI JUNKO	4. 巻 Vol.37 No.2 (Serial No.75)
2. 論文標題 Chinese "Secret Societies" in Siam in the Late Nineteenth and Early Twentieth Centuries	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Institute for East Asian	6. 最初と最後の頁 39 - 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 濱下武志
2. 発表標題 亞洲沿海港口城市網絡与潮州商人網絡
3. 学会等名 香港中文大学アジア研究所主催「全球潮人与一带一路」国際会議 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hamashita Takeshi
2. 発表標題 "The 1873 Vienna World Expo and the Chinese trade statistics presented by the Chinese Maritime Customs."
3. 学会等名 The XIX World Economic History Congress at Paris (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Koizumi Junko
2. 発表標題 "Vicissitudes of a Second-Generation Chinese in Siam in the Latter half of the Nineteenth Century: A Note on Fak Chotikasawat"
3. 学会等名 Hong Kong Baptist University, "An International Conference on Positioning Chinese Diasporas in Southeast" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 濱下武志
2. 発表標題 中国海関史研究的三個循環
3. 学会等名 復旦大学「東亜現代化進程中的中国海関」国際研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 重松伸司他著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 927
3. 書名 『アジア人物史第11巻 世界戦争の惨禍を越えて』(「ラーマ五世(チュラーロンコーン)」)	

1. 著者名 吉澤誠一郎・林佳世子編集責任	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 『世界歴史 17 近代アジアの動態 19世紀』小泉順子「焦点: 近代シャムにおける王権と社会」239 260	

1. 著者名 小泉順子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 378
3. 書名 「シヤムの自立」吉澤誠一郎監修・石川博樹他編著『論点・東洋史学：アジア・アフリカへの問い158』	

1. 著者名 小泉順子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5. 総ページ数 107
3. 書名 「トンチャイ・ウィニツチャクン 2003『地図がつくったタイ 国民国家誕生の歴史』石井米雄(訳) 明石書店」中西嘉宏・片岡樹編『初学者のための東南アジア研究』	

1. 著者名 飯島明子、小泉順子 編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 528
3. 書名 タイ史	

1. 著者名 村岡倫(編)、村岡倫、中村和之、岡田至弘、渡邊久、濱下武志	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 297
3. 書名 『最古の世界地図を読む』, 濱下武志「海洋が生んだ世界図」(3 41頁)	

1. 著者名 Katja Naumann, Torsten Loschke, Steffi Marung, Matthias Middell, eds. (HAMASHITA TAKESHI)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Leipziger Universitätsverlag	5. 総ページ数 722
3. 書名 In Search of Other Worlds. Essays towards a Cross-Regional History of Area Studies (Competing Area Studies between United States and Great Britain in Hong Kong and Singapore during the Cold War)	

1. 著者名 Katja Naumann, Torsten Loschke, Steffi Marung, Matthias Middell, eds. (KOIZUMI JUNKO)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Leipziger Universitätsverlag	5. 総ページ数 722
3. 書名 In Search of Other Worlds. Essays towards a Cross-Regional History of Area Studies (The Development of Southeast Asian Studies in the Post-war Period in the United States and Beyond)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小泉 順子 (KOIZUMI JUNKO) (70234672)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------